



国際会長 (IP) A. Shanavaskhan (India)

Together for a Better World

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長 (AP) ジョウン・ウォン (香港)

“Make a Great Impact”

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事 (RD) 山田 公平 (宇都宮)

“Our Future Direction”

「ワイズの方向性を見極める」

湘南・沖縄部部长 (DG) 久保勝昭 (横浜つるみ)

「共に支え合い〜共に喜びを」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「楽しんで、できる範囲で、YMCA と地域に伝えよう (パートII)」

会長 古田 和彦

副会長 秋元 美晴

書記 古賀 健一郎

会計 大高 治

直前会長 古賀 健一郎

監事 松島 美一

ブリテン 秋元 美晴

担当主事 立花 明美

<今月の聖句>

伊藤 比朗美

「苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによつてわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。」

(口語訳 詩編 119:71)

今月のひとこと

金災翔震新選変暑楽米



佐竹 博

新しい年を迎えました、皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今回も公益財団法人日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」2024年版について触れたいと思います。多くの報道がされ

た第1位は「金」、5回目の1位となりました。第1位になった理由に「光の『金 (キン)』と影の『金 (カネ)』という読み方の違う二つの特徴があったと解説されています。

「光の『金 (キン)』はパリオリンピック・パラリンピックでの日本選手団の活躍、大谷選手の値千「金」の活躍、佐渡

「金」山の世界遺産登録、新紙幣発行などが挙げられています。対して「影の『金 (カネ)』」は、衆議院選挙に影響を及ぼした政治とカネ・裏「金」問題など、「金」目当ての闇バイト事件多発、物価高騰などです。今年の漢字は、世相を反映し漢字検定協会が選んでいると思っていましたが、実は一般公募で投票によるものだったと実は初めて知りました。選ばれる字もその理由もなるほど、と思うわけは民意を反映しているからなのだと思ながら納得した年末でした。さて、第2位から10位は「災」「翔」「震」「新」「選」「変」「暑」「楽」「米」、何となくイメージが付きますし、「変」「楽」は昨年度も10位以内にいます。「暑」「米」は2024年を象徴しているように思います。11位から20位は「大」「闇」「高」「裏」「政」「幸」「和」「税」「愛」「戦」でした。ポジティブさを感じるものが少ないことに気づきます。

横浜YMCAの2024年度は、多くの皆様の募金をいただき、新年と同時に発生した地震の被害に遭った輪島へ災害支援活動に赴きました。いつの時代も変わらず元気な多くのユースリーダーが今年もリーダー活動に1年間翔けぬけました。東日本ボランティアリーダーズフォーラムに参加するなどして全国の仲間から刺激を受ける機会をいただいて感謝申し上げます。会員総会で常議員に、当クラブから古賀さんと齋藤さんが選任されました。猛暑の中でも富士山YMCAで夏キャンプが行われ、昨年よりも多い子どもたちが参加し、楽しい体験をたくさんしました。保育園では環境に配慮した食材を調達していて、その米は広島と岐阜の農家と契約して調達しています。生産からの一環を知るためにYMCAの保育士・栄養

士たちは広島農家を訪問して研修を行いました。ちょっと無理やりのものもありますが10個使ってみました。

今年1年が、素晴らしい年になり、社会の人々がよい一年だったとポジティブな感じを選ぶような年であってほしいと思います。私たちYMCAもそのために社会に、地域に、人々に仕える働きをしまります。本年もよろしくお願いたします。

<2024年12月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
11名	メン 5名 メネット 0名 コメット 0名 ビクター 0名 ゲスト 2名 合計 7名	64% (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<1月の行事予定>

EF JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
1/18	土	18:00	YMCA・ワイズ 合同新年会 兼 第一例会	中華街 心龍
1/23	木	17:00	第二例会	Zoom

12月第一例会報告

古賀 健一郎

日時: 12月12日(木) 16:30~20:30

会場: 横浜中央YMCA 708教室

出席者: 秋元、大高、古賀、立花、古田

ゲスト: 横浜YMCA 学院専門学校日本語学科の学生2名

BAE BYUNGJIN (ベ ビョンジンさん、韓国出身)

MADDUMA PATABANDIGE RANDINI WIHARA (マドゥマ パタバンディゲ ランディニ ウィハーラさん、スリランカ出身)

例会は古賀ワイズの司会により定刻に開始され、古田会長の開会点鐘と挨拶の後、ワイズソングの斉唱、ワイズの信条の唱和が行われました。続いてゲスト紹介、司会者による聖句朗読と古田会長のお祈りがありました。

今回の例会では、8月に横浜YMCAカレッジグループ主催の日本語スピーチコンテストに参加した横浜YMCA学院専門学校日本語学科の留学生2名をお招きし、交流の時間をもちました。お二人はそれぞれ韓国出身のベ ビョンジンさんと、スリランカ出身のマドゥマ パタバンディゲ ランディニ ウィハーラさんです。例会では、国籍や文化の違いをテーマに話題を提供し、多様性を学ぶ機会となりました。

【具体的な話題】

① 《文化の違いに関するエピソード》

10年前、第1回スピーチコンテストでスリランカ出身の参加者が、鎌倉大仏の土産品として仏像の形をしたお菓子が販売されていることに衝撃を受けたエピソードが話題となりました。

「神聖な仏様をお菓子にすることが理解できない」と語られた内容に基づき、当時ワイズメンの間でも議論が交わされました。クリスチャンの多いワイズの仲間では、神様は形にとらわれないという考えがある一方で、スリランカの文化では形あるものにも深い敬意を払うことを知り、異なる価値観を尊重する重要性を再認識する機会となりました。

② 《ある横浜クラブ会員のワイズへの入会動機》

横浜で開催されたワイズメンズクラブ国際会議の英語通訳ボランティアをきっかけに、ワイズメンズクラブを初めて知ったそうです。当初、「ワイズ」という語感から「自分たちのことを『賢い』と称する団体にはなかなか入れない」と感じたのですが、後に「Y's Men」が「YMCAの人たち」を意味することを理解し、その働きに共感して参加を決めたそうです。ワイズメンズクラブは「愛と奉仕」の精神に基づき、公正で平和な社会を目指す運動を展開しています。

③ 《横浜YMCA 学院日本語学科の特色》

日本語学科では言語教育だけでなく、キリスト教精神に基づく「多文化共生」「ボランティア精神」「平和の推進」などを教育方針に掲げています。ピンクシャツデー運動など具体例を挙げつつ、多文化教育の付加価値を提供している点が印象的でした。

④ 《スピーチコンテストのテーマ》

ベ ビョンジンさんのスピーチ「くねくね」、ウィハーラさんのスピーチ「不思議な力」は、いずれも「感謝」のテーマが中心でした。この隣人への思いやりや感謝の気持ちは、平和な世界を創造する大切な要素であると考えられます。

⑤ 《卒業後の進路》

ベ ビョンジンさんは韓国でIT関連のビジネスを広げたいと考え、ウィハーラさんは日本の大学で国際関係論を学び、将来は国連で働くことを目指しているそうです。

【総括】

国際的な交流を通じて互いに支え合い、友情を深めることは、貴重な経験であり大きな財産です。私たちは「地球市民」として手を取り合い、平和を創り出す存在でありたいと願っています。留学生の皆様が夢や目標に向かって大いに頑張られることを心から応援しています。

その後、ビジネスミーティングで今後の予定を確認し、古田会長の閉会点鐘により、定刻通りに終了しました。尚、例会終了後、2人の留学生とともに軽い食事をとりながら懇談し、さらに交流を深める時間を持つことができました。



左からべさん、ウィハーラさん

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

新年の抱負

「3で割れる2025」

秋元 美晴



今年は2025年です。私にとってきっと良い年に違いありません。なぜなら、2025は3で割れる数だからです。初めての受験は高校受験でした。そのときの受験番号は忘れましたが、3で割れたことを覚えています。大学受験のときも3で割れました。大学院の修士課程の受験番号は「9」だったのを覚えています。もちろん合格しました。博士課程の受験のときは、修士論文を書き上げてへとへとだったので、受験勉強がままならず、頭の中では不合格に決まっていると思うのですが、受験番号が3で割れたので、必ずや合格するという変な自信がありました。日本人は西洋人に比べて迷信深いと言われるのですが、私は日本文学や日本語を専攻したせいだから迷信深いのでしょうか。英語を研究している夫は、まったく迷信など信じません。2025年が世界中のすべての人にとって良い年がありますようにと、3回言うために毎晩流れ星を探しています。

「新年の抱負」

伊藤 誠彦



2022年10月、集中治療室で2週間ほど寝たきりで過ごした後、要介護2に認定され、ケアマネージャの指導の下、1週間に1回(3時間/回)の割合で、通所リハビリテーションのサービスを受けた。それから2024年10月には要介護1の認定を受け、少し改善したことによる。今年は今までリハビリで教わってきたことを自分なりに工夫して、せめて要支援レベルに認定されるよう頑張りたいと考えている。

「会員の増強を求めて」

大高 治



ある高名な和尚は「高齢者は、自分の人生がどれだけ豊かであったかを噛みしめる大切な時期に居る。ここでは穏やかに心を整えて行くことが、人生の最後の段階における成長だ」と言います。だが、高齢とは何歳からであろうか。

中国の歴史が5千年なら、インドの歴史は7千年で、ほとんどのことが経験済みだと言う。人間は120歳まで生きられるとインドの聖人が唱え、ゼロもインドで発見された。

「100歳までの生き方、人生百年時代の思想」は既にイン

ドでは出来ています。①25歳までは「教を聞く」学生期、②50歳までは「家に住んで家族を養う」家住期、③75歳までは「人生を振り返り、成せなかったことを思う」林住期、④100歳までは「何を社会に返して行くか、残して行くかを思う」遊行期だと言うのです。

林住期の最後の年に入会した私は、今年85歳。立派な遊行期です。何をなすべきか。会が一番欲していること、困っていることは「会員の増強」だと思います。今までの80の手習いのような抱負は、遊行期を生き抜き、役割を成し遂げるために役立てたい。

「新年の抱負」

押川 幸男

本年もクリスマスの季節に、新年を迎えることができ、感謝です。

今年は、20年振りに1月2日生まれの母の95歳の誕生日に宮崎に帰省し、家族での誕生日祝いに出席することができました。

母は、体調も良く、散歩も続けているようです。今回は、5年後の100歳の誕生日に会いましょう、と約束しまし



た。

5年後の自分自身の体調を想像すると少し心配ですが、私も今年から中断していた朝の散歩を始めようと思っています。

そのためにも、生活リズムを整えて、あと少し仕事も続けていこうと考えています。

人と人の繋がりが、生き甲斐にも繋がりますので、横浜クラブの今年の納涼会も楽しみにしています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「今年は戦後80年」

古賀 健一郎



今年は戦後80年の節目の年です。私の育った長崎は、父が勤務した三菱重工を中心に造船の町として栄え、戦時中には巨大戦艦武蔵が建造されるなど軍事兵器の開発拠点となり、そのため1945年8月9日に原爆の攻撃目標となりました。母校の高校の前を流れる浦上川では、原爆の直後、「水を」と叫びながら息絶えていった被爆者の姿があったと聞き、その悲劇の記憶が私の心に深く刻まれています。こうした経験は、平和への強い思いを抱かせる原点です。

利己的な自国優先主義や覇権主義が広がる現代にあって、「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」(宮澤賢治)という言葉を胸に、平和の実現に向け、一歩ずつ行動し続けたいと決意しています。この節目の年を、鎮魂の祈りを捧げ、平和への誓いを新たに一年としたいと考えています。

「新年の抱負」



齋藤 宙也

明けましておめでとうございます。昨年の年始は、1日、2日と大変な災害・事故から始まりました。今年は、(4日午後時点で)大きな災害・事故はなし。昨年のクリスマスの東戸塚の沿線火災にぶち当たり、今日も熊本からの帰りは京急の沿線火災にぶち当たったものの、多少帰宅が遅れただけで済みました。100パーセント予定どおりでなくとも、何とか命をつないでいければ良いのでしょうか。

昨年は、9月頃から激務続きで、全然例会どころでない感じになってしまいました。今年もドラスティックに暇になることはないと思いますが(なったらそれも困るので…)、せめて、学生時代していた演劇の関係とか、オリエンテーリングを復活させることができればと思っています。

「すべてYMCA」



佐竹 博

私の毎日のほぼすべてが、YMCAのためのものです。すべてをYMCAに注ぎ込んでいると思っています。「辛そう」だとか、「それでは誰も総主事やりたがらないよ」とか、、、いろいろ言われることもあります。でも総主事はそれでよい

と思っています。長い人生のある一時、すべてYMCAに仕えるなど、総主事しかできない経験だと思っています。もっと言えば教会から派遣されていると思えばかっこいい、とも思ったりします。ご心配なく。私は、YMCAのための通勤時間の間に映画を見ることができ、次の日のYMCA活動のために熟睡して身体を休めることもできています。それに、YMCAに奉仕してくださるワイズの皆さんとお付き合いで食事すること、結構楽しいことは多いのです。今年も100%YMCAです。

「ライフワークを探す一年」



田口 努

2024年横浜YMCA会員クリスマス会が、私の属する日本バプテスト横浜教会(1873年創立、152年周年)で開かれた。その際、創立時の牧師ネイサン・ブラウンを紹介した。宣教師としてビルマで、ビルマ語の讃美歌を翻訳し、インドのアッサムでアッサム語の新約聖書を翻訳し、米国へ帰国して奴隷解放運動に関わった。その後、日本でのキリシタン禁止令解除を聞き、1873年なん

と66歳で日本に赴任し、その7年後の1880年74歳で初めての新約聖書の和訳を完成。1886年1月1日に79歳で没し、今も横浜外人墓地に眠る。私も60台最終年となり70台を迎えるが、ネイサン・ブラウンほどではなくても、何か人生の後半を締めくくるライフワークを探す一年でありたいとも思う。

と66歳で日本に赴任し、その7年後の1880年74歳で初めての新約聖書の和訳を完成。1886年1月1日に79歳で没し、今も横浜外人墓地に眠る。私も60台最終年となり70台を迎えるが、ネイサン・ブラウンほどではなくても、何か人生の後半を締めくくるライフワークを探す一年でありたいとも思う。

「今年こそ」



立花 明美

先日友人から「喪中はがき」が届きました。2024年は喪中連絡の件数が多いなあと感じるのは、気のせい/年のせいでしょうか。考えてみると、親の世代であ

れば私は「定年」の歳。働き続けているけれど、家族も自分もいつまでも元気ではない…。去年の抱負に「今年はおちおち休みを取り、健康に留意し、自身の見聞を広げていきたい」としていました。振り返ってみると、いつもと変わらない1年を過ごしていました。だから今年こそは、新たな自分を見つけて、最後は「よくなっていく」自分発見の年にしたいと思います。

「切支丹の足跡をたどる」



古田 和彦

私の所属している横浜海岸教会の『150年史』を完成させて2年経過し、近隣の横浜指路教会が昨年150周年を迎え記念式典に参加できた。また、年末には横浜バプテスト教会で横浜YMCAクリスマス礼拝が持たれ、151年に及ぶ教会の歴史にも触れることができた。

さて、今年は非常に具体的な抱負を持っている。私は北海道出身のため、西日本、特に九州には縁が薄い。年進んでキリスト教の歴史に関心が出てきたこの頃、どうしても切支丹の足跡を訪ねてみたいと思うようになった。おかげさまで旅行できる体力が今年あたりまではありそうなので、妻と切支丹の足跡をたどりたい。古賀ワイズから伺った長崎の26聖人像や教会を巡りたい。併せて、平和記念像も訪ねたい。

第104回YMCA-Y's協議会報告

古田 和彦

- 日時 2024年12月3日(火) 19:00~20:30
○会場 横浜中央YMCA 6階608号室
○出席者 20名 内横浜クラブ3名 佐竹博、立花明美、古田和彦
- 開会礼拝 聖書 イザヤ書59章21節
祈禱 益聡(横浜つるみ担当主事)

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

2. 挨拶 横浜YMCA総主事 佐竹 博
ワイズ湘南・沖縄部部长 久保 勝昭

3. 協議

- ・YMCA・ワイズ合同新年会の開催について(久保部長)
2025年1月18日(土) 18:00から
於 横浜中華街「心龍」 会費 5000円
原案通り承認された

4. 報告

- ・第26回横浜YMCA インターナショナルチャリティーラン(関口努スタッフ)
10/19(土) 臨港パークで開催には66チーム参加、オンラインで14チーム・個人27人の参加があった。総収益は、4,881,760円であった。
- ・YOU&I コンサート(鈴木横浜つづき会長)
9/28(土) YMCA・地域の友好団体との共催で今年も開催。ワイズメンが大勢参加され感謝。
- ・2024年度国際地域協力募金(柳原恵理子スタッフ)
800万円目標で2025年3月まで展開中。11月末で298万円ほどである。用途は、海外協力、地域協力支援、能登への災害支援などである。協力依頼があった。
- ・大和クリエイティブ Y サービスクラブチャーターナイト(久保部長)
11/24(日)、湘南・沖縄部7つ目のクラブとして上記クラブのチャーターが行われた。会員は8名である。東日本期理事など東日本区のワイズメン、西日本区代表、日本YMCA同盟総主事、横浜YMCA総主事、大和市長などワイズ・YMCA関係者・地域代表でお祝いした。
- ・11/30(土) 第2回部評議会が行われ、部名を「かながわ部」とする事、沖縄をエリアから除くことが決定した。東日本区に申し出て東日本区定款の変更を依頼する。また、部主催の交流会を三浦YMCAで2025年4月に開催する。
- ・各クラブ報告が各クラブ会長から行われた。

次回 第105回 日時:2025年3月4日(火) 19:00~
20:30、会場:横浜中央YMCA(予定) 担当:横浜ワイズメンズクラブ

『横浜YMCAクリスマス礼拝報告』

古賀 健一郎

横浜YMCAのクリスマス礼拝は、12月21日(土)13時30分より、日本バプテスト同盟 日本バプテスト横浜教会にて開催されました。礼拝は会場参加とYouTubeライブ配信(第一部のみ)による形式で行われました。

横浜YMCA 会員事業委員会の徳澤洋子さんの司会のもと、第一部は礼拝、第二部はハンドベル演奏の構成となり、充実したプログラムが展開されました。横浜YMCA 混声合唱団による美しい賛美が捧げられ、保育園や学童の子どもたちをはじめとする各部門の手話による讚美動画も映し出され、心温まるひとときとなりました。

さらに、第二部では横浜YMCA Port Friendsによるハンドベル

の美しい音色が教会に響き渡り、クリスマスの喜びが存分に表現されました。このように、参加者全員が感動を共有する素晴らしい礼拝となりました。

日本バプテスト横浜教会の大矢蒼生牧師から『私は主のはしのためです』というテーマでクリスマスメッセージをいただきました。(聖書箇所:ルカによる福音書1章26節~38節)

大矢牧師は、まずご自身の教会について紹介されました。

「日本バプテスト横浜教会は151年の歴史を持つ、日本で最初のパプテスト教会です。バプテストという言葉は浸礼を意味し、水に全身を浸す洗礼の形を通じて、罪深い自分に死に、新しいキリストの命に生きるという象徴的な意味を持ちます。」

続いて、YMCAの理念にも触れられました。

「YMCAの創立者ジョージ・ウィリアムスは熱心なクリスチャンでしたが、YMCAを布教の場とはせず、キリストの愛と奉仕の精神を具体的な活動を通して実践する場としました。この理念に基づき、人間性を尊び、公正で平和な世界を目指して、YMCAの使命は今日まで受け継がれています。」

メッセージの中心では、受胎告知の場面で天使がマリアに語った「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」という言葉について解き明かされました。

「聖書は、『自分の命は命の創造主である神様のものである』と教えています。マリアは受胎告知の対話を通して、命の源である神様に自分をささげる決断をし、『私は主のはしのためです』と答えました。この『はしのため』とは、神に奉仕する者としての生き方を表しています。」

さらに、マリアとイエスの母子の関係について次のように語られました。

「マリアは『主のはしのため』として自分を神に捧げ、イエスは『全ての人の救い主となるために十字架に進まれる』という決断をされました。この親子は共に神の御心に従う道を選び、自らを神に捧げました。」

最後に、大矢牧師はクリスマスの意義を次のように締めくくられました。

「私たちが神様に信頼して愛し、隣人を愛する時、この世界は暗闇ではなく、神の御心が実現される光の世界となります。この働きがイエス・キリストを土台とした奉仕の場であり続けることをお祈りします。また、YMCAの皆様には地域の教会につながり、イエス・キリストを通して神の愛の動機を深く知っていただきたいと願います。」

礼拝の席で献金を集めさせていただき、横浜YMCA 会員事業委員会委員長古賀健一郎が献金のお祈りをいたしました。その後、当日の献金は『横浜YMCA 国際・地域協力募金』として活用されることが伝えられ、募金を受ける横浜YMCA 国際事業委員会委員長の岸宗克明さんから、感謝の言葉が述べられました。

礼拝の最後には、横浜YMCA 総主事の佐竹博さんが、日本バプテスト横浜教会の皆様や横浜YMCA 関係者への感謝を述べるとともに、次のように閉会の挨拶をされました。

「クリスマスは、さまざまな場所で礼拝が行われ、人々が祈りを捧げる時です。日々の生活に不安を抱える方もおられるかも

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

しませんが、この特別な時には平安がもたらされることを願っています。神様はイエス・キリストをお遣わしになりました。私たち YMCA も、その生き方に基づいて歩むことを使命としています。どうぞ素敵なクリスマスをお迎えください。」



最後に、暗闇を照らす夜空の星のように、イエス・キリストのご降誕の光がすべての人々に希望を灯し、困難の中を歩む人々に平安と安らぎをもたらされるよう、平和の主に祈りを捧げます。

なお、横浜クラブからは古賀、佐竹、田口、立花、古田の各会員が会場に参加しました。



横浜バプテスト教会でのクリスマス礼拝参加者(講壇を背にして)

厚木ワイズメンズクラブ 20 周年記念例会等報告

古田 和彦

○日時 2024年12月7日(土) 13:30~15:30

○会場 厚木YMCA 401教室

○出席者 約30名 内横浜クラブ3名(古賀、佐竹、古田)

9月5日で創立20周年を迎えた厚木ワイズメンズクラブが上記の日時、手作りの心温まる記念例会、記念演奏会、祝会を行った。司会は徳澤洋子ワイズ(書記)、以下、主なことを記す。

第1部 式典

佐藤節子会長の開会点鐘、全員でワイズソングを唱和、会長式辞のあと、横浜YMCA 総主事佐竹博さんと元東日本区理事の田中博之さんから祝辞が寄せられた。

第2部 記念演奏会

富山姫路子さんのフルート、古屋敬子さんのピアノ伴奏でクリスマスソング・民謡などの演奏、ジョイフルクリスマスメドレーとしてみんなで讃美をした。

第3部 祝会

鈴木茂横浜つづきクラブ会長の乾杯で始まり、心づくしの美味しい料理と飲み物をいただいた。川口知幸ワイズ(副会長)の挨拶、佐藤会長の閉会点鐘で終了した。

担当主事 立花 明美

12月は2日~7日の1週間を人権週間とし、初日の月曜日は全体研修を実施しました。みんなで課題や問題を再確認し、意見交換する時間をそれぞれで持ちます。各事業や館では、本格的に次年度準備が始まりました。

12月 2日(月) 横浜YMCA 人権全体研修

12月 7日(土) 横浜YMCA カレッジグループ合同クリスマス礼拝

12月 13日(金) 街頭募金活動(関内駅)

12月 14日(土) 横浜YMCA 学院専門学校国際情報ビジネス科 オープンキャンパス/入試 ECGL 参加者オンライン顔合わせ

12月 18日(水) YGK プチ体験会(新年少)

12月 21日(土) アフタースクール 説明会・体験

12月 25日(水) 健康教育部・語学教育 冬季講習

12月 26日(木) ~28日(土) スキーキャンプ

*志賀キャンプのみ29日まで

12月 26日(木) ~28日(土) ECGL

12月 26日(木) ~28日(土) こどもにほんごクラブ

12月 26日(木) 常盤町町内会清掃活動

1月例会プログラム

日時: 1月18日(土) 18:00~20:00

場所: 横浜中華街 心龍

YMCA・ワイズ合同新年会

例会報告: 大高ワイズ

<2月の行事予定>

日	曜日	時間	行事内容	場所
11	火・休	10:00	横浜YMCA 会員大会兼 横浜クラブ第一例会	とつかY
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 立花明美にご連絡ください。

メール tachibana_akemi@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★